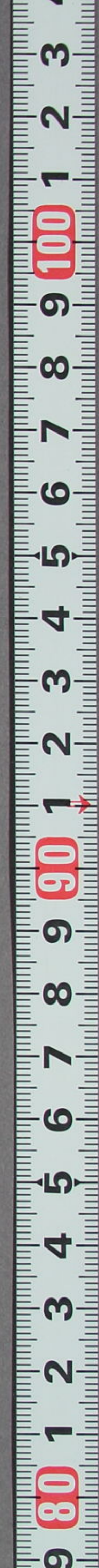


Handwritten text in a cursive script, likely a title or author's name, written on a central rectangular label on the book cover.





天保年間か

雪袋集巻之部

あはれなる雪のふり  
あはれなる雪のふり  
あはれなる雪のふり  
あはれなる雪のふり  
あはれなる雪のふり  
あはれなる雪のふり

雪  
余



百歳の長龍うらひのたうりもあを カ 海 境

右集やまおゆのうらう カ 梅 室

えぬの取む人のあつちの物靴 カ 龍 室

くらのふおゆ カ 瓢 室

あつちの カ 大 室

あつちの 我中 吾 室

あつちの カ 舟 室

あつちの 山 舟 室

あつちの カ 舟 室

あつちの カ 舟 室

あつちの カ 舟 室

あつちの 山 舟 室

あつちの カ 舟 室

あつちの カ 舟 室

あつちの カ 舟 室







山崎の煙く喜む中あふれ エチゼン 如 積

あふれとみりのほろろ夢 〃 竹 籠

伸るあふれほろろむら柳 〃 花 室

あふれとみりのほろろ柳 サカイ 花 松

あふれとみりのほろろ柳 イマモ 花 曉

あふれとみりのほろろ柳 ワカサ 花 蓋

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 水

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 鏡

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 山

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 草

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 庭

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 響

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 草

あふれとみりのほろろ柳 〃 花 古

あふれとみりのほろろ柳 カ 花 城



龍子のあやう懐のこにたてしり

<sup>ワカサ</sup>栗富

きつーやうやうはまのあやう

素坊

鳴龍のうらうらうのあやう

<sup>エチゼン</sup>石一

あつたつたつたつたつたつた

<sup>ハ</sup>羽白

このあつたつたつたつたつた

<sup>ワカサ</sup>蓮草

藤原のあつたつたつたつたつた

松疎

くさむらえあつたつたつたつた

<sup>カ</sup>照平

あつたつたつたつたつたつた

<sup>エチゼン</sup>素山

富吉のあつたつたつたつたつた

<sup>エチゼン</sup>布福

あつたつたつたつたつたつた

<sup>カ</sup>柳圃

あつたつたつたつたつたつた

<sup>エチゼン</sup>五疎

あつたつたつたつたつたつた

有草

あつたつたつたつたつたつた

<sup>エチゼン</sup>児芳

あつたつたつたつたつたつた

<sup>エチゼン</sup>素明

あつたつたつたつたつたつた

<sup>アノミ</sup>柳湖

あつたつたつたつたつたつた

也然



湖をうかぶかゝるや木の風  
 取替へ遊ぶうやうの海  
 折るもそまほまのむ様うま  
 き〜むける折の力をあつたうら  
 ち〜免る〜 物さ〜らうれ  
 焚きその山火〜た〜た〜え  
 人〜鳴〜う〜花〜た〜て〜見〜た  
 其〜雪〜吹〜落〜ち〜枝〜く〜ま〜さ〜く

五

カ 生 部 難

カ 生 部

エツ中 茶 部

イツモ 松 部

エツモ 茅 部

カ 木 部

ハ 物 部

エツ中 松 部

峯〜う〜ら〜ふ〜し〜み〜ん〜ま〜や〜た〜の〜  
 峰〜も〜い〜つ〜る〜や〜り〜た〜ら〜る〜ま〜の〜友  
 木〜は〜雨〜や〜ぬ〜ら〜た〜ぬ〜葉〜の〜あ〜る

山ノ口 如 松

エツ中 木 部

木 部



夏之部

生垣の上へお母が月夜  
 人待母は心も静かお母  
 朝田へお母は心も静か  
 何事やら心静かお母  
 静かお母は心も静か  
 宛先お母へお母は心も静か  
 松 乙 松 乙 松 乙 松 乙

二階よりお母が心も静か  
 静かお母は心も静か  
 乙 松 乙 松 乙 松 乙 松 乙







あしき物にまがねをさすの端半

桐下

今も降中か白雲の枝まゝ

荻ヒシロ子

吹雪のまゝに柳の葉をま

子

川乃水先くると花はほ

玉カ藁

吹雪のまゝに花の葉を

柳イブキ葉

招きかゝる花のまゝ

松柳

あしき物にまがねをさすの端半

花エナシ也

五有りのまがねをさすの端半

玉エナシ柳

入梅のまがねをさすの端半

星池

吹雪のまがねをさすの端半

李雪

あしき物にまがねをさすの端半

荻カ子

あしき物にまがねをさすの端半

麻マ藁

あしき物にまがねをさすの端半

柳ユツヤ子

あしき物にまがねをさすの端半

母ハハ子



姫乃金やさうし向ぬあのか

エッ甲 葵 牙

鴨のせしけしむあなうま

セッ、 梅 敷

夕のほや月よふ海をさうらむ

ワカサ 菜 根

ゆふねや款のちのふのふ

布 雪

麻畑おとけしあつぬ志の楼

車 拵

卯のや藤しんたてくあし

敷 舟

押ふにまおあつてくあし

車 拵

馬あさりてくあし

イセ 番 長

あまきやほのけりおる

エッ中 他 玉

いあおし一物あまて

於 登

まげらまのちまふ

エッ中 林 曹

わしあまのあつて

梅 人

足あやしくむら

熱 号

清ぬのこまのそ

水 竹



砂濱の心や遠の像川 カ 丹 カ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ

遠く松をま ハ 仙 ハ



秋の部

初婚や 多のさあ 一を待中庭

まの秋を 夢のまのまのまのま

日影を やし 秋を さらけに 暮さるる

きききき の 心 ちか ちか ちか の 秋

さや ぼた ちか ちか ちか ちか の 月

お 岩 一 ちか ちか ちか ちか の 胸 子

十一

松 園

山

山

山

山

山

一 ちか ちか ちか ちか の 心 ちか ちか の 秋

河 邊 の 木 葉 陰 の 中 や 玉 ちか ちか

ちか ちか や ちか ちか ちか ちか ちか ちか

相 一 ちか ちか ちか ちか の 心 ちか ちか の 秋

秋 一 ちか ちか ちか ちか の 心 ちか ちか の 秋

秋 一 ちか ちか ちか ちか の 心 ちか ちか の 秋

秋 一 ちか ちか ちか ちか の 心 ちか ちか の 秋

十一

松 園

山

山

山

山

山

山



細くも 葉しつゝ なるもの 魯 権

とりの 木の葉も なるもの 晩 穀

竹の 葉も なるもの 梅 西

草花 散の なるもの 秋 富

の 葉も なるもの 李 吉

とりの 葉も なるもの 朱 翁

葉も なるもの 東 井

海 葉も なるもの 右 乙

綿の 葉も なるもの 布 女

ちの 葉も なるもの 葉 女

の 葉も なるもの 梅 女

の 葉も なるもの 五 播

千 葉も なるもの 布 女

浅 葉も なるもの 松 女

の 葉も なるもの 花 女







有父子...  
 橋...  
 米...  
 庭...  
 高...  
 秋...  
 只...  
 於...

蕙 德

友 田

思<sup>ヨハリ</sup> 文

角 辰

李 瞻

眉<sup>カハ</sup> 年

素 遊

素 野

音<sup>エウチ</sup> 外

日...  
 和...  
 春...  
 今...  
 世...  
 情...

可 庭

好<sup>イセ</sup> 敵

双<sup>カハ</sup> 水

三 枝

晴 江

清 由



の井 女 貴 下 乃 音  
川 梅 娘 の お 女 那  
足 海 山 崎 崎 崎 崎 崎

留 吹

エチセシ

カバ 極 毒

傳 分 子 心 心 心 心 心 心

エチセシ

カバ 破

所 如 如 如 如 如 如 如 如

カバ 加 行

略 々 々 々 々 々 々 々 々

ハ 森 齋

々 々 々 々 々 々 々 々 々

エチ中 喜 人

々 々 々 々 々 々 々 々 々  
々 々 々 々 々 々 々 々 々  
吹 々 々 々 々 々 々 々 々 々

イセ 白

五 大

ハリマ 為

エチコ 凌

々 々 々 々 々 々 々 々 々  
々 々 々 々 々 々 々 々 々  
々 々 々 々 々 々 々 々 々

カバ 雙

エチ中 外

カバ 枝







おのちの部

湯豆腐のうねあはる村たのむ日 <sup>アツ</sup> 麓 海

系神もあへぬくまへ 初時 <sup>ト</sup> 枝

時ひもつはらぬあまのまを <sup>石</sup> 半

耳より成流くまへは時雨 <sup>一</sup> 色

志らぬや二女目のちのあはる <sup>セツ</sup> 客 蘭

思ひぬお早もはり <sup>鳥</sup> 津

小崎まは柳の木す海は時雨 <sup>月</sup> 坂

山右波のまも <sup>五子</sup> 拾 川

海の上月 <sup>〃</sup> 柳 水

志らぬや <sup>五</sup> 拾 権

細くちの <sup>五</sup> 拾 藤

義仲 <sup>五</sup> 拾

権のあ <sup>五</sup> 拾 琴

何れ <sup>五</sup> 拾 如



濱のほとり松をよき花魁の妻

ワカサ 一 如

見よとちの妻や少き家の様を

カ 子 如

物のよき花魁の妻のよき花

カ、 子 如

室所よき花魁の妻のよき花

山ノ 百 如

出よ母の松のよき花のよき花

ワカサ 如 如

おもしろくは松のよき花のよき花

エツ中 如 如

松のよき花のよき花のよき花

カ 如 如

井のよき花のよき花のよき花

カ 菜 丁

鳥のよき花のよき花のよき花

一 花

松のよき花のよき花のよき花

松 如

岩のよき花のよき花のよき花

エツ中 大 如

おもしろくは松のよき花のよき花

エツ中 子 如

人よき花のよき花のよき花

ムサレ 市 如

おもしろくは松のよき花のよき花

山ノ 如 如

おもしろくは松のよき花のよき花

ノト 風 如

おもしろくは松のよき花のよき花

エツ中 如 如







あつちのうらなひの海にうらり

五中

お

おつちのうらなひの海にうらり

〃

海

あつちのうらなひの海にうらり

〃

磯

あつちのうらなひの海にうらり

〃

物

あつちのうらなひの海にうらり

九

起

あつちのうらなひの海にうらり

イセ

江

あつちのうらなひの海にうらり

〃

江

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩

あつちのうらなひの海にうらり

〃

岩







釣棚の如く足出ぬ櫓のり

梅 致

禁々々々々々々々々々々々々々々々

カ、  
東 陸

神楽の足々々々々々々々々々々々

為 山

悟中の一車子如くは路中

首 金

娘の如くは足々々々々々々々々々

五、  
六 水

うづつやうの如くは平々々々

乙 外

細豆汁万味乃如くは白の如

カ、  
貝 山

舟如くは舟の如くは舟の如く

舟 粉

舟の如くは舟の如くは舟の如く

松 堂

舟の如くは舟の如くは舟の如く

舟 岬

舟の如くは舟の如くは舟の如く

ワ、  
舟 岬

活々々々々々々々々々々々々々々々

舟 岬

舟の如くは舟の如くは舟の如く

舟 下

舟の如くは舟の如くは舟の如く

舟 下







極象一々々又つむいふ事か イカ 若  
 降一止む事一柳乃事れ 〃 求古  
 梅一星公の事一とある事 〃 多年  
 文業や赤ちの事一とある事 〃 米友  
 船一止む事一漆の事なり 〃 浦五 口カサ  
 明一止む事一事一とある事 〃 晴素  
 舟一止む事一事一とある事 〃 舟蕉  
 神一止む事一事一とある事 〃 士孫 王カセ

一々の事一柳の古事一とある事 〃 柳言  
 海明の中に一止む事一とある事 〃 浦山  
 梅一止む事一とある事 〃 克亭 カ

唐書一々

一々の事一柳の古事一とある事 〃 斗和  
 一々の事一柳の古事一とある事 〃 梅村 ト  
 一々の事一柳の古事一とある事 〃 雪鷗  
 一々の事一柳の古事一とある事 〃 輪五



草花の白く松の山吹の  
下 艾

河津の白く松の山吹の  
葉 丘

種敷の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結

土の白く松の山吹の  
根 結



正東梅のついで

人さへおぼしきとて世はあはれのみ

梅家

うへへ世にまはるる系は 一の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭

あはれおぼしき世のあはれは 世の庭



其まふ宿のまふまふ主神化  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ

荷倉

和風と其まふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ  
 其まふまふまふまふまふ



正有は扇のやまのあはれ

はあぐねる歌よる中

川神の向ひたるは清極子

地よりのものたるのあはれ

泣きよは二世のあはれをよる

戦くはあはれのあはれ

あはれおのほのあはれ

酒よあるは白の酒樽

庭

下

野

河

舎

庭

下

野

はあぐねるはあはれ

人よあはれのあはれ

花の名もあはれ

春のあはれ

今よあはれ

舟のあはれ

あはれ

あはれ

三

庭

下

野

河

舎

庭

下

野

酒

舎

庭

下

野

河

舎

庭

三







湖の深さの浅さの苦の甘

可度

あつちの山を煙る煙草

山

侍とあつちの山を煙る煙草

山

仕事とあつちの山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山

山を煙る煙草の山を煙る煙草

山



池邊の草花の香気  
春の訪れを告げる  
旅人の心を癒す  
夕陽の光を浴び  
花の香りをかぐ  
空の青さを愛する  
水の流れを聴く  
風の音を待つ

池 邊 山 庭 會 山 庭 會

樹の下で静かに  
秋の風を待つ  
月夜の静けさ  
朝の光を待つ  
夕陽の輝き  
花の香りをかぐ  
空の青さを愛する  
水の流れを聴く  
風の音を待つ

山 庭 會 山 庭 會 山 庭 會



たのしみはあつたか

おれはあつたか

おれはあつたか

おれはあつたか

おれはあつたか

おれはあつたか

山

山

山

山

山

山



